

祝辞

宇陀市誕生 10 周年を迎えるに当たり、このふるさとはぐくまれた者として心からお喜び申し上げます。

わたくしが産声をあげましたのは宇陀郡室生村大字向淵（むこうじ）、いまの宇陀市室生区でございます。野や山は四季の移ろいを鮮やかに映すスクリーンであり、日本の里山の原風景そのものでありました。

テレビもゲーム機もない代わりに考える時間は多くありました。

榛原高校（現榛生昇陽高校）に通っていた頃のわたくしはふとひらめき、裏山の竹の皮を集め精肉店に持ち込みました。当時、竹の皮は肉の包装に用いられていて、わずかながらも苦しい家計の足しとなりました。

自分で育てたハウレンソウを鶴橋の市場に運び、大人たちに混じって売ったのもそのころでした。新鮮さを保つためにハウレンソウの表面を霧吹きで濡らす工夫をしたことをありありと覚えております。

それらは他愛もないことではありましたが、わたくしが後にビジネスの世界に飛び込むための助走であったように思えてなりません。ここ宇陀の自然と歴史がわたくしをビジネスの世界へと送り出してくれたのです。

人はだれもふるさとで人生の第一歩を踏み出します。わたくしは宇陀の地に生まれたことへの感謝の念を忘れたことがございません。

宇陀市がこれからも、自然ゆたかな、人情細やかな「ニッポンのふるさと」として、ますます発展することを願って、お祝いの言葉といたします。

株式会社オービック 代表取締役会長 野田 順弘